

明治十九年三月九日内務省贈付

特41

412



葉一御一新大掃除 全

明治十九年三月九日



真の喜多葉一御一新の大掃除

真に目覺る曙の空旭の昇進に順うて蒙昧の夢を散破して心清明あり我國中頃以來異教蒙虫の爲名よし然う義木を倒し既に蘇生れ覺束なきに至りてに御一新の御心さしに因て是を起し是よりつちのひ惡習を根除き養育すは随ひ新撰の芽をふき出し國教復古の英の結び其のんばしき海外に布き扶桑木とあつて國強の枝は張る繁茂する事遠きよりあらざ

夫此世界ハ人

陽系統といふて太陽統轄維持し給ふ此世界あり大陽日尊剛勢の引力を以て此世界は引留給うが故に此世界は此全世界がはれば社我あり大陽のけきばこの世界あり此世界をければ我もあり我有て其真知を報謝が故に其恩を忘る其恩を忘るが故に其恩を報謝は厚きに基き真神に依頼し是を載るに恩主とて違ふ五官に覺智せざる忘想を載くは人のほど高尚のぶると雖ども人説乃思想あり是人が人よ吞はるにあらざや膽力確るは日本男子に歎ぶべき事にはあらざはべし



御朝旨

第一條

一敬神愛國の旨を體たすべき事

第二條

一天理人道を明にたすべき事

第三條

一皇 upper を奉載し

朝旨を遵守せしむべき事

右教憲の大旨後來に忘失を恐れて授記し若此件に悖  
戻せば顯幽に惡報を感ぜ依之終身謹守すべき事

如斯重大の御朝旨は天時を以て示し給う所あり開闢  
以來天然自然の臣民として奉載せざんば有べあらざ  
るに異教の爲に迷惑し胸空ばあや國に厄介とあ  
ま肝心の靈魂は遠國を遠着して宮社をいつて神なきが  
如く異教の奴とあらん事を好んで手の舞足は踏所を  
失ひ國教の美本を忘失せん事を歎ひ不忠不義を不顧  
臣は臣たは道を失うとは嘆らしき事どもあり

一 天地の間物として上下本末備具せざる物あし  
た首尾をらざるはあし自然尊卑を備う東は物の始に  
して西を終りあや大陽日尊東に顯わ終西に入没す東  
は春あり西を冬あり春よ生存し冬に枯終す成るは尊



く終はは卑き尊き歎ひ卑き歎ひ成はの始ハ本  
終るを末ありあはの始ハ頭あり終る尾あり天窓ハ  
尊く足わ卑し

夫我國わ世界ハ東頭ハ自然して其尊き歎備う氣候は  
寒暖中正にして三拾五六度ハ全地ハ位ハ沙漠不毛の  
寸地ある萬物繁植じて闕事あり

皇上わ開闢以來 天祖より連綿として其御尊統を  
たがわせ給わ老萬代不朽お示して踏せ給ひ君々にし  
て臣々たり實ハ君子の國にありて君臣の眞律たがわ老  
政教ハ異郵の如き思想にして有名無實ハ人説歎載ハ  
老日々新にして正的尊威の驗証有る無始無終ハ天然  
世界維持ハ目前に示し成に能て老造るに及老天然自

然乃尊物歎載き其眞律自然に備わら名美ハ國は世界  
廣しと雖ども海外に冠絶たり此國美を歎んで國礎を  
汚さん事歎思ひ眞義ハ爲に身命を擲うつ事歎恐れ老  
る者老きして敬神愛國の誠士にして日本男子ハ魂と  
いふ

一眞は本あり本の眞を確かに勤て天命の終身お終ら  
んと思わば世に迷う事更さふし本の眞歎失ふが故に  
まようあり異郵は異郵我國ハ我身ハ本あり我身の本  
ハ數千歳の今日に至はきて其厚恩の深き浴し何不足  
あき恩歎しつて歡ばば是其本を歎ふあり其本を歡ば  
ば 皇上は數千歳乃恩をよして數千歳載て尊き君



かて其尊き君の御恩澤に因て聊も逆政ふを祖より父  
 祖より數千歳乃我に至るまで何不足あや戸ざさぬ御  
 代に枕高くあて安眠し腹鼓にて歡樂は編に眞  
 代本の君の御恩頼あり異邦の君と違ひ我國の君ハ開  
 闢以來代君々にあて眞代君あり臣々にあて眞代臣あ  
 り僧侶といふども一般神農の臣民にあて釋氏種イエ  
 ス照一人もあし開闢以來代臣々にして眞の臣民あり  
 眞の君乃尊恩然しらば其眞代君代思食は背あてして  
 尊髪もたがわだ本代眞を知つて勤るが勤むはといふ  
 物あり今日重大代 尊皇尊重して仕ゑ給ひ崇敬し  
 給ふハ 天照大御神あて是 皇上代御方嚮あり  
 其御方嚮に遵ふて其御方嚮代尊神代歎んて尊崇し奉

家が是 君王代御方嚮に遵ひ奉り本代眞を失わだ  
 其君代載き其尊恩然と云ふ物あり本代眞を知つ  
 て歎てば何ぞ重大代 御朝旨に背を事乃あらん敬  
 神愛國代旨を體すべき代 御朝旨ハ天主教や釋教  
 の思想神を券集して崇敬せよとの 御朝旨にあら  
 だ眞神直接にして 天祖よその御政教お遵奉せよ  
 と代 御朝旨ありと終は 御朝旨代遵奉して歡  
 ばは本を歎て眞を盡して臣代臣あて誠忠にあて眞義  
 あり然るに異教を迷惑して踊は者ハ我國の我國たる  
 我君代我君たは其本代眞を猿國を遠着して鐘大鼓て  
 尋るとも有べあらだ是無益の事に迷惑して手間ひま  
 と費し金銀代費し何れ善き事代種時ハ始まるまじ第



一我國の本以失るは世界冠頭の國美を失ひ國以汚  
 事を歎んで君以輕蔑を國礎政教の美本を押倒し開闢  
 以來の遺風を遺して神棚以廢し是亂暴乃下稽古を  
 以らざる下稽古以て我國乃我國たは國礎以美本を  
 汚し 御旨を背いて不忠不義を求めて何れ益に  
 もたたぬ事に力を入れて人道以捨て本以捨真おすて  
 尤らしを踊るとは日本男子おらば耻べき乃甚敷おす  
 細民猿智惠の淺見よて空理屈を踊らるとも御一新の  
 析柄用ひてよきは是れとて惡しきは捨て御如在とし  
 公益善美は 皇上聊是を捨給わると世界冠たる眞神  
 直接の政教よして凡人思想の教法と違ひ正理嚴然た  
 る政教故是は舊を捨給わると 天祖に御遺勅を謹慎

して遵奉し給ふ誓するははらばはるにハはらねども  
 流石天然の神國其名程を恥ぶ眞理を以て膽力確か  
 せば塵も属さる大盤石に政教おす天不明れ時を垂流  
 給ひ四方元始神武皇御代々御皇祭神嘗祭等れ御祭典  
 御廢止國美基本を失ひ給う時倒來せば其時に乗じて  
 踊らべと天正明乃時を以らば世界を冠たる眞理正道  
 國教の深意を知らば本を捨真を失ひ調子よれつて踊  
 るとハ不忠不義を招ひて臣乃臣たは道以失ひ腹わた  
 が見えて氣に毒おす

一異教人宇宙太陽靈界の天象と大陰地體れ物質と混  
 同し尊卑の差別を失ひ天象冥神神威發顯れ窓牖を物



質とし大陰地體は自生金氣水土と同黨にふゑて論じ  
流は甚以て文育のさたふて獨り大陽靈界よりをだ  
て大造化造成かすハ大陽真神直接明火力の一點  
り此火力乃恩頼は降し恵み給わらんば絶えて地球  
に一切萬物有は事ふしまた此剛勢は引力をば地球  
が本より有る事多し宇宙より降は物は尊物の長上  
り下土に有て其尊物の降臨恩恵に因て其尊物の示令  
に順ふて是より助けらきて其用をふは物ハ卑しきの極  
あり大陽靈界は眞神大陰體は不明黑暗にふて蒙昧は  
困難に漂ふを救給は是は助けたるうに火力は進動剛  
勢をだし給ひて大陰體の蒙愚黑暗は散破して光照  
を授て是は助け給は其自性金氣水土強寒の爲に束縛

せらるは大難を解き給ひ是は助け教うて是を使用し  
一切萬物お造化造成を給ふて我身はり火力は一掌中  
に出る事眼前に正証あるは是は彼是難づはは世界は眞  
理は盜む萬引あり眞理の陰法師に誦は者あり其正証  
ハあるべからん多き社稷も正証あり片腹はたき事ど  
もあて我身有る故神木も有るまきば此界に有るは  
物ハいゝほど文育の極は養ふるといふとも眼は口は  
ア耳は身はつてはは養ゆる者ハ此正証を知らざる  
はハ一人も有べらんは陰體の自性金氣水土の大ふん  
をひ無智は物は活し是は使用し給わんがため靈  
界より降し給ふ所の神妙尊火力は力と同統は比例して  
論するハ甚文育至極はさたふり神妙火力の進動は大



剛勢といふ物の真神の利剣あり此利剣にむらう強敵  
は天上天下に何事なし此利剣は妙用を陰體の氣水  
土に傳ふ給ふ因て造化造成せらるゝ格物質に火力は  
妙用は自質に備ふざる物一物もふた

一心ハ火性にして太陽に準じ中央に正位し其色赤し  
其性温を敬愛して系属まつたゑ一身を温めて其生活  
を全す 天照大御神賦與し給ふ靈魂離るゝ時は  
進動剛勢火温の妙用道具とし主精離るゝが故に死す  
る時はのこるゝ陰體乃一點にして是は助けつゝこふ靈  
魂なきがゆゑに火温なくして其冷ること嚴寒は水の  
如き進動剛勢離るゝが故に心なきがも動を事なしよ

んどころなく無性と成て體を本の陰性にもゑる靈魂  
ハ深ましくして不老不死の靈界に昇進す此真性の確論  
にていよいよ國教の尊旨重大にして眞實なるべし艸  
木光照温の恩頼に因て生存しゝつ繁植は諸虫生存を  
全してわき出し光照温に合ふばゑて生活し會ふま  
ば生滅は生存するも生滅するも光照温恩頼の一掌中  
に留る事顯然たり

一異教人の蒙談は陰陽は無知ありと甚き文育の至  
極に何ら若や陰は無知あり陽ハ明知あり夫陽といふ  
義は現わぬ顯れは、真義あり現わぬを威力あり威  
力有るゝ活物あり顯るゝ物は真にして甚明なるあり



大明成るが故に大智大能あり人にして無智文盲成は  
 者或賢明明智とはいふべからん知識するどくして天  
 明の如くあるが故に賢明明智と是を賞讃す何ぞ無智  
 文盲の者を賢明明智と賞讃する事有らんや後陽ハ  
 活物不老不死の本源にして眞明なるが故に顯わは顯  
 わは、かま毫髪乃いつわりある清明の聚集して大明  
 大徳大智大能乃眞精故に尊く至尊の長上あり上に正  
 位し大明無量の眞神にして大明太陽といふ大ハ太々  
 無限の義稱かま大天靈界無量の眞神ありわづら地球  
 上に顯わは、所ハ一大陽を以て太陽の限りと小量す  
 べらるる聊窓戸を開いて太陽明主嚴威の妙用剛力  
 顯わして地上を造化造成して教ひ給ふ所あり威力あり

をば現わは、事能わざるは至當の定理かま顯わは顯  
 わは、異教人の神の如し何ぞ活物乃主宰として  
 威力あり事の有らん威力有つて顯わは明にして大明  
 主ありが故に天上天下乃善惡掌中かま試してみら  
 如し大剛勢ハ威力を以つて對すべきは是を嚴對し善  
 美は忽感應有つて是を慈恵し給ふ天命の規律すこ  
 もたごう事能わざは符節かまつて合すが如し其止  
 証今日眼前に確然たり天地ハ天地の眞對嚴重にして  
 有ますことかくもらすことかま確かまはつて天地に  
 溢る、大威力何ぞ隠し覆ふことを得ん顯わは、が眞  
 正理あり金満家一文もかましという承知する者少  
 きが如し自然の眞は自然に顯わは誠ハ眞神の神力あり



つて日々新に正証を顯し正證嚴重れざる一ふくば何ぞ是を眞神と云わん顯証あるが故に眞神あり尊きありまた口計りで驗証ふくば不用の物あり眞理を害しがゆゑに云らぬ物なりまた利屈許りて云ら程有りありと券紙と雖ども現わるゝ事能ざる物ハ本なき物故顯はるゝ事能ハズ財布を金錢扱入る袋故是非金錢の定理ゆる金錢確に有るに相違おしとつれるとも本よであげれば顯ハるゝ事おし異教人の教法みお是あり空財布をふるうれ空利属にしていおほどふはうとも一文おければ出は倒しおし川童のをあらぬんと云て寐食びてすき腰辨當の命懸けて免れ角以尋るともあんど女牛のきんたま求ること云えん大造れ

空言で實用にたつ物ふら此界に不自由する物更におし先空利屈が實用にたち威力が出来て顯わき出光り照り輝きて助け救ふの驗証を日々新たに我五官に確おに云らしむる時倒來せば其時を兜覆ぬいて降参すべし先夫までハ日本男子の膽力確おは連中を御免々々  
 元來異教人未來に進むるを大後手にして  
 文育の至極あり是類のわ千牧照強よくより起るむだ事あり是思想教を始し預言者れ手くだにして文盲野蠻の化ありて是につりこみ蒙昧れ大海を引陥し度と失わぬめて正理をさふの策界あり靈界主宰大陽眞神を不老不死永遠をつらぎとて給ひ現在未來の差別おし現世天命れ人道本の眞誠勤勉て今日を歎ば



未來をぬがうてうろつ々及ばせ能き實と結ぶハ今日  
日れ耕作にあり

眞誠の兵意

一國を愛して國の爲に勤むるは人道に至緊至要あり  
國は我が故に先祖あり先祖ありて我身あり國を思ふ  
は我身を思ふあり我身子孫に爲を思わば國を愛して  
勤むらんば有べらるる國は我家あり我身乃根あり國が  
たければ國豊ありあり國ゆたありれば我み安しことに  
わが國ハ海外に各國と違ひ天然の善美を備ゆる名國  
故に汚らん事な患ひは臣民として一雙勤務せらん  
ハ多らざる國體あり國美をけがすも國備お輝かすも

皆臣民に忠不忠勤むると勤むるとにありては勤むる  
は國を穢し君を汚し先祖をいやし我身お卑しく  
すはあり臣民憤忠して勤むる時ハ國強張り四海に  
英名を輝さば君に忠先祖を孝とあり君國を尊とし我  
身に貴くするあり離れんとするとも離るゝ事能わざ  
るは 天照大御神と我國ありては思わらんば  
有べからるる國を愛して勤めらんば有べらるる國を愛  
るは勤むるは兵士あり國を穢すも英名を海外に轟  
くすも兵士の勤むるにありてはやとやうとも兵士ありて  
は隠れても兵士ありては君を思ひ國美の自然を歎  
び先祖を思ひ我身を思ひ子孫の爲を思ひわゝ男子を  
産んで忠孝を全々するは實に其父子に冥加とやいわ



ん幸慶とやいわん歎ひ歎んで然るべしいかに君を思  
ひ國美汚さん事歎ふは先祖を思ふて奥齒をのみ  
わるとも女子あるはて無子あるはにせん國恩に  
報ふ事ハあらざんべしは潔よく願うても勤むべ  
きハ兵士あり前條のぶるが如く海外と違ひ國美獨別  
れ國たはが故に日本男子乃別稱は各國ハ如く君が  
臣とあり臣が君とありあるは共和とあり君臣ハ眞  
律あき國體と比例して混雜すべからん開闢以來君々  
にして臣々たる永遠無量深恩の君王たる事お知らハ  
忠もまた他にぬきんでまは有べからん義もまた海  
外に異あらざんハあるは細民といふと此深  
意歎肝腑に納ぬきむて、海外に雙あるは必日本魂

歎吳々汚さぬ様磨きたき事どもあり

一兵士は勤るは蛇蝎の如く忌み恐るゝハ甚しき不覺  
あり我國を捨て、行所は有べからん何れハ國として  
此役は男子に生れ備わは天命多て天命あれば男子に  
生るゝ其身ハ冥加あり人道の眞とあらば天命は生るゝ  
天命はつて其君を仰ぎ天命は由て其國に生るゝ  
歎んで其國を愛し國家ハ爲に勇み進みたると一財は  
至るとも敵に進んで後を見せざる社君は思ひ國を愛  
すはといふ物あるは進む者て必勝ち逃るものは必死す進  
する者ハ肩け進むをハ必活き逃るものは必死す進  
むも乃は天命に任せ天命を守るが故に天是を活し給



ひ我力以充分につこうが故にあらん勝ち逆は事  
先にする者天是を罰し給ふが故に我として我力以  
先に殺すがゆゑに眼見ぬ我としてわき城ふるして  
死す是天命と恐まはれ天命おぼらざるともはる君以  
仰き國以愛する真情れうち國強以強國美以輝れ真  
理以衆心一致して天命を謹守し君を以ほざ國を以  
以て日本魂れ巧し以海外に震ふの時ころはた終り  
勤よや壯士

一皇上の大綱大綱の御持主はで大綱振し以て大獵  
得萬民以富嶽の以きに振き安眠おさし給わんが爲  
民は先んじ御足振るばだてまも給ふ乃御時あり御至

至尊乃みだ御事よりは臣民一般銘々に關係するの  
基あり細目の數千萬の人民あり一般に綱目大綱に伸  
縮に順ひ自由ある時ハ大獵得給うか大獵得給  
ふ時は上一般の富嶽あり此綱の細目大綱に伸縮  
順わぬ開を時に志ほみ志ほむ時に開らば魚を以て以  
つか大獵得給はれ時あらん大獵得給わらんば以  
つか富嶽に居て安眠する時あらん上下一般人心一  
致するときは志ほむときは志ほみ開くときハ開き人  
心分離する時は志ほむときに開き開く時にしほむ  
り人心一致する時ハ大盤石の如き強きあり分離する  
時ハ至て弱きあり薄氷を踏むが如し一致せらんば以  
つら強國富嶽にいたらん強國富嶽にいたらんば尊



貴自然國美は英名はいつの地球上にしく事以得ん勤  
よや壯士勤王無二の忠士とあるや英條は士

一人として恐れ謹まざらんば有べあらざる事ハ私情か  
マ世に大切の身命を過ち不忠不義の汚名は求め無上  
に國美を汚すも此私情あり私情を精神は家來ふる程  
よく使えば善とあるはしくつゝあるは悪臣とあり心力  
強ければ善臣とあるは心力弱ければ私情は悪臣と感わ  
るは人道を失ひ天命に背き大害其身に及ぶある私情  
は勝はるも乃は末代に汚名はのます私情に勝れく者  
ハ萬代に美名をのこす心神は神明乃御名代にして神  
明乃審判者あり誠はたまりにして正真むきの寶珠

かり然に私情人道を失ひ不忠不義は許らんと乞ふ心  
神をけつしてゆはす物にあら曲て主命に忘たがわ  
る不忠不義を働ふんとこふ私情人は害し盜賊す主心  
の落度とある神明是をゆるし給は終に天罰を蒙る  
主心は善惡は能辨すと雖ども此私情の爲に終に惡人  
とあり君は思はる國は受せ不忠不義は陷いる  
あり心力強き者ハ天命は能守り私情に勝ぬひて天理  
人道は明らるに其身は全とすして○御朝旨を遵奉  
すはあり今や兵藉に備わす恐縮してや、そすは天  
命は背ふんとす者ハ是則私情あり天乃仰何ぞ背  
をにみちあらはべし兵士に職するも皆天は仰ふる  
能々自得すはふる恐縮するは道理有べあらは進



み勤て志あるべきことあり歎ひ進まば天命の綱の細  
目大綱に伸縮に順じうて大綱を得給ひ富強勇武國  
を極免○御震襟安じ奉つり自己も富強乃豊國に安  
居し安眠すべし是兩忠誠全くして冥加に至はるか

一嚴備代先務ハ兵士あり此兵士を券り富強以極給わ  
んとするに細目恐き故にして私情を構ふ此役退後  
んとし禁戒然おふして罪然天に求んとする者何ぞ  
ぞ蒙昧れ甚敷に何らまや臣々にして臣道を失ふば  
私情に因て爭論然かし是非よらば異氣地を以て  
既にきたし合をふべき勇も持あがら君の爲國のた  
め我身子孫基本のためにはる時よ至らば恐縮して其

勇を失うとは是人の事と思ふ私情を任はが故に甚重  
しわはわが物としてハ吏にあき事な能く考辨せば天命  
じて此身の産給ひ神明に役に天命じて使ひ給うと思  
ふは潔きよくして甚輕し第一命ハ今日様の御賜物な  
り體は國士の賜物なり此國士乃用務に勤させんが爲  
に御産はるばした此身乃上あり夫々其用は今日様よ  
り仰つけらきて産給し事なれば唯何事も天に仰つけ  
ら給し事はいやおうあしに勤ねばならぬ此身の上  
なり○神明より皇土と此者は何役に使わきよと御わた  
しにありし此身あり因て一休の歌にそ

わが役を心にうまぬ役あきと

天に役をなやなとしづせひあし



兎角何事も此歌に述べて唯〇御上は御所存て無體  
に權力は以て御つゝの遊ばはと思ふよ。問違ふる  
我身は我勝手と心得我身の上乃關係第一たる事。知  
ざるが故に不足が故なるも能々辨解すべし。顯幽〇  
御兩君御相談の御事ありいに志んふやを成べき  
事件にハあらざるべし。眞實以て臣の道を盡さば〇  
御兩君を對し奉り兩忠全たあらべし其親としても左  
如し手前の子と思ふよ。問違ふ出るあり全く手前拵  
えし物あらば手前自由にもあるべし手まゑの物で  
あき故に拵えし時日の覺えも有べからば拵えし時日  
に覺えあき時は我物には有べからば子澤山にて迷  
惑し拵えまゝと思ふともまた出來またてきやあひと

思ふて丹精するとも出來べがらば是我物てあき証據  
ありあきば我子といふとも我子あらば神明の仰に  
因て唯うだつる天命を勤む役あててみるも全々〇  
御兩君は御物にして産ま出ると御届申て御上の御物  
あはべし。されば御自由任せが天道に正理あるべし此  
深意を辨解して其職まつらば誠の忠義がいづはあり  
誠忠出る時は細目天命に備職あつて大綱に伸縮に  
背く事あらず能整ひ能遵奉して漸真に御用にたつて國  
家以富強にして高名譽の礎とあは

一われ我物としてハ一物もあき事自得せしめて無據  
其職まつらば無據私情が先にあらば我職は我職と思わ



人此事と思ふよ其荷至て重しはわといふ時は足  
手まどひとあつて御用にな、老夫のみあらぬ事  
先にはる故淵に落谷にまるひ高名おくして死に至  
はかす心得違ひ故本有る忠勇が出所失うが故に無  
巧にして大切に思う命は犬死はるあま是眞實忠  
以て大綱乃伸縮に順がわざるがゆるに天是を罰し給  
うあま忠勇を全ふ勤むる者ハ神明乃御加護をこふむ  
ま死すべき時は死し活べき時を活るあひ兎角心とい  
き活し眞實以て向ふ時は勝ていきるあり心殺してよ  
んどあるおくしてむこう時の心先よ負て死するあり  
往古れ得失視てふるべし其しよくハ天命成は事  
能々辨解すは細目の衆臣大綱の伸縮に能順ひよを

勤まは事れ有ん蒙味一掃するに至らば正理照明乃  
鏡も顯わるゝあり顯わるゝ時ハ身子も産後御用乃時  
得る社幸慶是に過ん是非御用になつて天命は勤め  
忠勇をばみ○皇上の御聖意に遵奉し國家を富強  
成に至らぬめ御聖意と安んじ奉らんと寸時を忘却す  
まじきが臣の臣たる職にして天命かりと解行べき  
まづあり是等閑れ事件にあらぬ兵士の要務堅固の先  
務あま此重任の席に座はハ身子たる者の面目冥加と  
心得てころあるべきあり  
一唯何事も無據ハ私情れ先達あま無據して勤は力  
ふした、其勤れ眞似をするれみあま由て費用にた、  
其力甚だ弱し



一 我々我々以て勤る事ハ力有て甚強したとる夜につぐ  
とせいとわら其道以全ふせんと心力おはげますが故  
に實用にたつて其力強し人心一致すまば軍令の律能  
整ひ律令に違わざれば一身をつまうが如くあまば敵  
是以恐る恐る、時は一騎當千よして手びさげまして  
時を得はふる是衆心一致して死を先んぶるが故に活  
ふふり活々て人道以全を、○兩君を對し奉て兩忠  
以全く勤むはあや

教育の真説

一 ううして教ゆるハ幼雅よ何ぞ今や他教分然として  
用もあき佛耶蘇ハ細見哉とがすに無益乃心力をつい

やし蕃神ニ依頼し肝心足本層大無二の國教以輕蔑し  
重恩以載を國神先祖ハ御巧績に因て今日安穩に滿腹  
以る本元我忘却し無恩の物を首に載き迷惑する事氣  
此毒千万あり實に無益の士持として人道の正理以失  
うといふ物あや是といふも異教の蒙説よ惑ひ細民ハ  
燈臺本暗し國學其旨ハ學識ハ國教の深意以知る者  
かく終に蒙昧とて國情に薄く國旨を忘却するが故に  
國を愛むる真情我失ふて國に必薄情とある國に薄情  
おれば國乃爲に忠勇あり國乃爲に忠勇あき時ハ人倫  
をみだれが故に厚き御政教の其旨我布き給うあや流  
行歌ハ如くあぐさみの事にあらぬ兎角教ある幼雅に  
あら幼雅ハ時ハ儼直にして正路あや其曲直とも其



教導の師に遵ふ誠を導けば正路にをむく鉄の植木  
を育つるが如く枝ぶりもまた其曲直に順う他教を導  
けば異教に陥いて國の本旨を失ふ國に薄情なれば人  
道に誠を失ふ他教に迷惑なれば國情に分離して其本  
元は眞實なれば是は兵藉等にて眞實をうたふれば  
根源なれば衆民一致すれば甚強し強ければいかほど剛  
敵に向ひ千騎が一騎も及ぶとも恐れ正是足本なれば  
うすはが故あり足本なればたきハ國愛乃眞情なれば金  
鉄の如くはるが故あり心魂は金鉄にきたひ足本なれば  
とふする社君を對し奉り無二に誠忠といひつべし國  
事に熱心して後異史異教を視るべし根元は深奥な熱  
心せば以るやと何やあすと雖ども迷惑すは事ふし或

人々訓しに土佐は國一小枝に生徒入校の則一統同音  
に中臣の祝詞を獻讀せしめまうして後一統其教場  
につらまむと是國礎を重んじ先志を失はまめざるの  
遠界實に其棟勇ましかるべし戰場に臨む勢揃に如し  
是心を探いて生徒乃衆心は一致せしめ人道の眞を導  
き足本をあたうれば海外冠絶の國に政教は後ば  
事足るべしと依にたらざる蒙教と混雜し人心は分離  
して國情はみだし大害乃基なぬくハ不用の事なれば  
慎まらば有べらま其教訓は神妙なる國情を失わら  
ぬ御基本尊位の厚きを導き實に其策畧珍奇にして  
能く御朝旨を奉載せし物と實に是を感銘す何き異教  
に偏固するは異郵を賞讃し自國乃事情は誹謗し輕蔑



し心は異境を懸着し我として我國を賤し我として  
我智城殺し異教に吞きて彼が奴とあらん事歎ぶ者  
多し是は通情にして愛國心は消耗は近頃格外うるる  
連の多き様子あり是毛を吹て疵を求め手前は是を  
、は、汝知らぬといふ物かや明辨せよんば有べあら  
どすべて教師ハ薄給たやといふとも其任は重職あり  
ゆるがせは職掌にあらば數萬代生靈公府に別あり善  
道を誘引れ重任あり是等教導まきある奇才よして國  
愛誠忠の義士一奇人といふ物かや○上は御朝旨を奉  
載し御聖意を遵奉し眞實誠意顯然たり仰ぎ給がわく  
は公私の別あるを隔々一般ある社にやたき事ともあや

○一大陽真神ハ人類とひとしあはれ不老不死よして  
天地は先にあつて宇宙を創造し萬物に主宰たり大陽  
ハ廣大にして中心に居て諸恒星乃引力及ぶ事あり游  
星はめぐり動ひて此游星大陽を依り事遠きあり近き有  
り其星の大小運行はやきとろき相整のうで永く中心  
をたごう事あり此故に大陽常に其定處所に居て自轉  
は或星其定處道を行てたごふふきハ臣其位席の順序  
につき其君王を仰ぐが如し君臣の定體備わつて天地  
平定して揺るぎあるハ臣君に能く仕る君臣に正理をみ  
ださば其職然つをして天下國家よを治家が如し大陽  
真神中心に有て光を發し四季を暖く生じ若一星光を  
を發して大陽真神は光をあげれば行星地を離るゝ事



遠近ひとしむらば寒暖大にたがひて萬物發生  
する事おし是逆臣有て君位妨害するが如し是に因  
て確に視るべし萬物の發生するも無物の空界とある  
も唯太陽真神維持職掌し嚴威の真徳を施し給ふ事明  
辨あるまた地球太陽に向ふば明らかにして晝とある  
背く時ハ暗くありて夜とある輪れ如く旋轉して晝夜  
の變更とある地球乃まある道筋違ひに南極心と界し  
太陽は回るが故に冬至の後漸北は過ぎ夏至の後漸南  
は過ぎようやくにたて四季ある若地球輪れ如くま  
わらぎまは地球の一方極熱に照らされれば一方ハ常に  
暗くして晝夜れまかちあしまた地球輪れ如く旋轉せ  
ざれば一方の半球長く極暑に照され一方乃半球常に

嚴寒の患あるまぬる事多しとあうして四季乃わら  
ちある事おし普あるも太陽真神其神徳大智大能は  
旋して此造化は布き給ふすべて地球は論れまは晝夜  
やむ時おし一方に旭は一方暮に及び一方日中に  
はよば一方子の深夜にはよふ爰に花盛の春はまは  
かしこにハ氷雪の冬寒あり土地變まは時節ともは變  
は是太陽其所をあらわはにあらは地球太陽のまわりは  
輪れ如くまわあるも一まわりまわると一年とある實  
に太陽明主乃威令に因て陰物れ地球能々遵ひよ々尊  
愛して臣道を失ふおは運行して晝夜四季はみださ  
太陽乃真徳大智大能は我與して萬物を發生して善美  
は顯わは此妙用は良法太陽明主は真神にあらはして



た然るよを經營して此創造の美を顯さん大陽の光照  
 氣水士を照蒸して温の妙用を授け陰物に精氣を動  
 して無量に美妙を顯わすは大陽明主の火力を陰物に  
 授るゆゑんふり此故に陰中に陽あり相愛の真理感  
 得の故に此美妙あり人身火おければ血こころあたま  
 まで死す天地に聞大陽火徳の妙用を施し給わらんば  
 大洋海河も水結して水流は空氣寒結せらば風吹  
 を事おく四季變る事おし天地をまた死せるが如し此  
 陰物重用の物に動し火力を授けたる天地を活し四季  
 を順行せしめて萬物を活し其妙用を行ふはひとり大  
 陽真神の火徳を以て是を活し是を動かさえて造化造  
 成して萬物を發生す大陽火力の真精大陽も往返して或

ハ地中に藏るは相愛の真理陰中に陽力を授け造化造  
 成のふり異教人の陰に其理に離れ、が故に大陽  
 火徳光照の深奥を秘中にして覺智を得る事能わん  
 また火よま奇あるはあし其美妙は事萬物に此美妙  
 授けて此美徳を顯わす卯木日蔭も生る物いろ白を  
 して寶色を顯わす事能わんまた其生存を全する事  
 あし日向に生るはものは五色を具えて其生活をま  
 たをえて繁植は暗夜に視る時ハみも黒色あり旭は昇  
 進に隨うて青を翠まかま花は紅白紫黄を具え菓  
 實の美色を極え人目を歡ばせめかつ食料に供せみ  
 大陽真神の職掌して顯わし給ふ証明にして眼前に智  
 覺する所あり大陽明主の光照に會は其真色を備えて



繁植して葉實を結び生活真に成道に似たり。む會さ  
れば白色とあてて本性の真色を顯わす事能わば終に  
生存を失ふ草木に限らば一切萬物みあはくは如し。志  
らば萬物滋發生し助けすくふは太陽明主乃一掌中  
に有る事是にていよいよ明辨あるべし。真神の神威を  
顯わし給ふ事隱さんとするとその事能わば覆わ  
んと流るとも覆ふは敵なく顯し顯きて驗証あるが真  
神にしてたすくは者あり教ふも乃あて太陽真神火徳  
を以て氣水土を統轄して此妙用を施し給ふ太陽明主  
は徴少の地球上を照すのみと見るは兒童の徴笑。我ま  
糸く者あり大天無量は太陽明主乃本體あり此地球上  
に顯るゝところの一大陽の人もして眼目の如し。靈魂

神の事

二拾三

目に見えどと雖ども窓戸を洞ひて萬般の所作奇工規  
律が全ふし其所作の妙が示令して驗証を顯まし其一  
身を助け救ふて靈魂乃確かに有の真証が示給が如し  
一大陽の天上の大主宰活眼を開いて明主の威令が示  
し給ふかり無始無終活物の主宰として何ぞ其嚴威乃  
顯ましとる事はあらん現わきて其証が嚴威あらが  
故に尊きかりまた恐敬して尊むあて唯名許り高尚な  
積といふども嚴威嚴証あくば虚にして空かて有名無  
實にして正の威威あくば何れ役にもたぬ物あり  
是真物の陰法師を盗み疑似して踊は者あて廣大無邊  
を造化造成するものはまた廣大無邊の夫威力あら有  
物の隠さばして顯るゝが正理あて本あき物の威力あ

神の事

二拾三



をして空ある威力ある物を威力の廣大に顯さんとするとも本あるき理屈は顯わると事能わざるが証明あり  
一〇神として物質によらざるハあし物質に寓して社其尊卑をわらふ神は慈悲を本と爲めごまはしが故に是を尊敬しかつ順ふ是神物相愛真理の大極あり神は物に因て造化造成成す物質を造成して神是に寓居して神威の驗証を顯わす人物を造成して是は靈魂の備え小天地を維持して至緊至要の働が如し太陽の物質として其真理をあらわして賤きものは氣の毒笑止千万あり光照温乃秘奥無上の善美を顯わすハあに者あるべし嚴威の驗証を顯わす大天主宰太陽の眞神ある物に因らざして造化造成成る事を得ん造化造成す

るに何ぞ其力を用ひざる事あらん大陽眞神明徳此智能を施し火力を用ひて大陰物を造化造成して天上天下を全備し是に無量の善美を具ふ

一五元素ハ皆金屬土類にして陰體の物あり皆燃焼の性あり故に火力に愛着し火力を以て是を用ひ氣水土此物に以て大陽火力と同類として其尊卑を格智する事能わざるは文盲の極あり世に火より奇妙なるはあしまた美妙なるハあし何ぞ奇あらは驚くべからざる物質とするが故に不思議あり眞神妙は明德火力の深奥をあらは驚くべき事よらざる永來火金氣水土此五行とし大陰物の金氣水土と比例するは何やまの極あり是則天主眞神の妙用あり此妙用を以て無



量此不可思議歟顯わすが真神の神妙ふすべて陰物  
ハ無情かり是をいゝつてつこゝが真神神徳ハ火力か  
り先導して物をいゝして物成つふふが造化造成の主  
宰ありて因て大陽真神造物の主宰あり事証明あり

一土ひとと艸を生ぜる水ひとり魚を生ぜる是相愛の  
大極にて陰物中に陽力成旋して是を生ぜる火温乃力成  
以て是成生じてこれといゝ其小証成成りてこれを成  
演ん冬寒の時は温火乃力成地下に藏して植物成其本  
根成養ひて其生活成全ふし其妙用勝ていふべらる  
みお温火乃力成元素に送りて生養成保たしむ動活物  
おき塵芥等を積重成またハ諸穀の類成照蒸し或ハ温  
熱して種々無数の動活物成發生成無性にはらる皆靈

智成具成て其方需成確にし其欲成は所ニ面向かり大  
陽南に過て冬寒氷雪の時成たり光照温を辨成はる時  
は諸虫發生して動活する事あり却て近寒の爲に生養  
す草木光照に會成さば白色とあり日陰ハ細長くして  
其花實成結ぶ事能わる耶光照の直射に會ふと成わさ  
るに因て其差別あり如し絶成て光照に依頼成せざる  
ば生存する事あり耶の小証成たり天地乃間ニ生活  
するも成ハ皆此順序あり大陽真神の外他に造成成ら  
くる者更に成ハ造物するも生養すは成靈魂成備ゆる  
も悉皆真神の恩頼成る成はに異教人乃雜談成視る  
べし天主人成創造するに土を成ためて是を人とし一  
男一女成成と成以て不自在成天主あり何ぞ成く



如く不自在にして廣大無邊創造の本主たる事を得ん  
畢竟伏見燒の人形師に如し是婦女子の寝物語に基  
や物あり實にゑるに居所を失ふまた此一男一女を以  
て世界人種に基本と爲是以て不自在に至極あり何ぞ  
をいふ事たるらん我國に我國に人種あり今や奇工に  
船を造つて万里の波濤を自由の船に爲し事あり人羽翼有  
なき事あり開闢の始を自由の船に爲し事あり人羽翼有  
て飛行する者に何ぞ船を造りて大洋海を數萬里  
に遠きを隔絶する國々を此人種行事を爲ん是も天主  
がたまふとあげしといふべし横理屈は鳥に天窓の白  
いといふともつく物あり近き事にて新世界と唱ふは  
アメリカを視るべし多岐まで世界よとらざる大國哉

國を數年間に勞苦を費しユロペヒユスが發見せし其  
國に其國固有のアメリカ人種あり是至當の天然あり  
また土を國免て人種をいさかけて一男一女を  
不自在はいか程あらべても不自在あり大陽眞神に  
大に異あり流石に驗証あり眞神にいさかきみ  
べし異教天主に不自在と雲泥の相違あり世界を視る  
事我掌中を視るより安し世界を視る事我掌中を  
はこむはつあふが如し神威に光照火徳を以て大陰  
物に精々たる重用の物をあつめて是を使ひ熱蒸は  
ばたちまち肉體骨格を備へ是に靈智を全備し生存確  
かな動活物を發生し其數一雌雄の小々たるを以てせ  
る一光照の威力を以て世界一般數萬億無量の動活物



發生す廣大無邊を許る主はまた廣大無邊の威力は  
つて廣大無邊乃妙用は旋すべて活物を發生すは  
尊卑を論ぜど一切萬物此真理はつて造工す人造成  
れ始祖を此順序あり造化造成はすまた其尊卑は  
備え尊き者は其智能真神につぐ智能は與ゑて是を重  
用に具ふ賤しき物は其分に應じ其智能は不足して是  
につがしめ重用乃者に順がわらぬ是をわらぬわらぬ  
一尊き物ハ其産む所の數すくふまたわらぬわらぬ  
極は其の多し光照温れ妙用に因て其年生は其年生  
滅する物多し尊きに順序し乃父母はる物多しいや  
しきの極ハ現物の父母有て生る物すをわらぬまた父  
母はつて生るは物に尊卑有智能の多少に因て尊卑は

り人德智能真神につき王位正なきが故に天上主宰大  
陽真神をさして父と唱ゑて是を崇敬す父と呼べば其  
子ある其子として其父の天命に背らぬ崇敬して遵奉  
せば父子あり父子として父神をば神乃子ハ神は  
事至當あり神人隔絶なきが故に父子あり隔絶する時  
は父子にあらぬ因て我國真神直接の政教ハ神人隔絶  
する事なし是至當あり死すれば則神と稱す何ぞ是を  
鬼とするは理はらん不老不死の靈魂不老不死の本根  
あるが故に神あり死は神の靈魂死するに  
らば其體が死するあり其體は大陽真神大陰母體の物  
は集めて造成は給ふ物故に死はば大陰乃物は飯は  
大陽真神賦與は給ふ靈魂は其物は家とし寓居はは物



歸家が故に別きて是また靈魂の其本を歸るたとゑて  
心えは行燈の如し行燈ハ大陰物あり油燈心は備ゑて  
是ハ火魂の如し行燈ハ大陰物を辨るが如し此火を消せ  
ば何の用にもたゞざる物あり人體是にひとし身體は  
行燈あり靈魂ハ燈火あり靈魂ハ具ゑて至緊至要ハ重  
用ありけりされば物體有といふとも靈魂かければ不用  
此物ありまた靈魂宿らんとせるとも物體かければ留  
る事能わぬ神有て物あり神あり物體ありつて靈  
魂是に留りて小天地ハ維持し靈魂ハ妙用あり顯るし其  
必用あり物體ありけりば靈魂乃留る所あり留る所あり  
ければ靈魂ハ其明証ハ旋ハ事能わぬ其示令あり成  
成事密にして毫髪たがぬ証明あり故に靈魂ハあり

証驗あり太陽真神ありといふとも真神ハ威力あり以  
て大陰主用此物ハ示令して是は使用し物體とあり是  
ハ體とし是ハ火力あり留るて是を使用し其神威ハ旋し  
て廣大無邊ハ用あり旋ハ給ふ人としては其恩澤ハ恩あり  
あるが故に長あり長あるが故に尊きあり天父ハ恩に  
次て恩あり氣ハ水土あり靈魂有つて活るともまた空  
氣ハ水土ありけりば心き事能わぬ氣ハ水土の三恩ハ光照  
温火ハ尊恩あり以て是を相愛感通し此人體ハ結び大陽  
明主の真神より尊き靈魂あり載いて長乃分位に居て其  
真恩乃其加恩ありにあらぬや其歎ありといふハ其恩を  
忘つて其恩あり歎あり其恩ありよるまあり故に其真恩  
報謝の念を以て是を尊崇するあり恩を忘らば天に次



て國恩歎しらば是は有べからば是は父母歎しつて母恩  
に報ふの順序ありわき神の子の先祖は神は眞神最初  
の神乃乎おでされば父神につぐの其順序歎もつて敬  
神は至當は事ありことに其國にして開巧は人の  
こと終もつて神は子に勝れし神あり神人中保にして眞  
神造化乃眞用歎もつとも勤て後來万人の思ひをれぞ  
き安居せしむるは眞功の終はかり恩を知らば敬神は  
はとも至當あまの順序を正敷はは天理の大極あ  
ま大陽中心よつて游星の順序を失わざはが如し  
人にあつて君臣父子人倫正敷してその國能を治はは  
天命にして此順序ある唯一神にして他に神稱あるも  
れあしとびるは神胤は靈魂深奥歎しらば蒙昧思想の

見かゝ笑わんとして笑もるゝ事歎えらざるは文盲  
の甚敷あま多神教と雖とも偶像よらば眞神父神を  
主として其順序を正敷してつかま恩を忘るは眞義に  
して正あま正理にして私情あり恩を謝して願ふの慾  
あし是我國は聖教にして眞神直接は本旨あり一神と  
して其眞神神胤の靈魂は事歎えらば今日の正命を  
不足にして惡目とし天命に背きて未來は終ごうは私  
情にして強欲あり手前勝手歎てあひはといふ物を  
り忘るゝ眼前の証明ある正理眞道にして流水乃如  
を塵もつあざる万代不朽大盤石にして善美冠絶國教  
は本旨歎忘却して異教思想は蒙説に迷惑し人が人に  
吞れて五官を殺されて死物とし耳あつて聽と雖ども



眞實正理の聞事能わ老眼有て眞實に正視を視る事能  
わ老身に覺えて覺ゆる事能わ老のたを人形に如  
し恐はべし是が爲に 聖上御方禱の尊神天主  
天照大御神を物質と唱えて輕蔑し有名無實に爲に臣  
に臣たる道は失ひ天命を忘却し先祖の遺志に背き不  
忠不義不孝の大罪を自ら好んでまねくとはいらに  
愚昧に極とはいふと嘆しき事どもあは是日本男子乃  
深を心得べき至緊至要あり

大 穢

高天原 爾神留坐皇祖神漏岐神漏美乃命以天八百萬神等  
乎神集々賜比神議々賜比我皇御孫之命波豐葦原乃水穗  
之國乎安國止平久所知食止事依奉朕如此依志奉志國中  
爾荒振神等乎波神問志爾問志賜比神掃示掃賜比天語問志  
磐根本立草之垣葉乎毛語止天之日磐座放天八重雲乎伊  
頭乃千別示千別天降依左志奉支如此久依左志奉志四方  
之國中示大倭日高見之國乎安國止定奉天天津磐根示宮柱  
大敷立高天原示千木高知比我皇御孫之命乃美頭乃御舍  
仕奉天之日御蔭日之御蔭止隱坐天安國止平氣久所知食武  
國中示成出武天之益人等我過犯家事雜々之罪事波天津罪止  
波畔放溝埋樋放類時串刺生刺逆刺尿戸許々太久乃罪乎



天津罪止法別國津罪止滋生乃腐斷死腐斷白人胡久美已  
母犯留罪已子犯留罪毋與子犯罪子與母犯罪畜生犯罪昆  
虫乃災高津神之災高津為乃禍畜生仆志蠱物為罪許人太  
久之罪出武如此出波天津官事以氏天津金木手本打切末  
打斷氏千座之置座示置足波志氏天津管麻手本劫斷末劫切  
氏八針示取辟氏天津祝詞乃太祝詞事手宜禮如此乃良波  
天津神波天磐門推開氏天之八重雲手伊頭之千別示千別  
氏所聞食武國津神波高山之末短山之末示上座氏高山之  
伊穗理短山之伊穗理手搔別氏所聞食武如此所聞食氏波  
皇御孫之命之朝廷手始氏天下四方國示波罪止云布罪波不  
在止科戶之風之天之八重雲手吹放事之如久朝之御霧夕  
之御霧手朝風夕風之吹掃事之如久大津邊示居大船手舳

解放臚解放氏大海原示押放事之如久彼方之繫木本手燒  
鎌乃敏鎌以氏打掃事之如久遣罪波不在登稜給比清給事  
手高山之末短山之末與理佐久那太理示落多支惹涑川能瀨  
座須瀨織津比咩止云神大海之原示持出奈武如此持出往波  
荒墟之鹽乃八百道八墟道之鹽之八百會示座須速開都比  
咩止云神持可々吞氏武如此久可々吞氏波氣吹戶座須氣吹  
戶主止云神根國底之國示氣吹放氏武如此氣吹放氏波根國  
底之國示座須速佐須良比咩止云神持佐須良比失氏武如  
此失氏波天下四方之國示波罪止云布罪波不在止稜給比清  
給閉止申須



明治十八年八月十三日版權免許

臣許

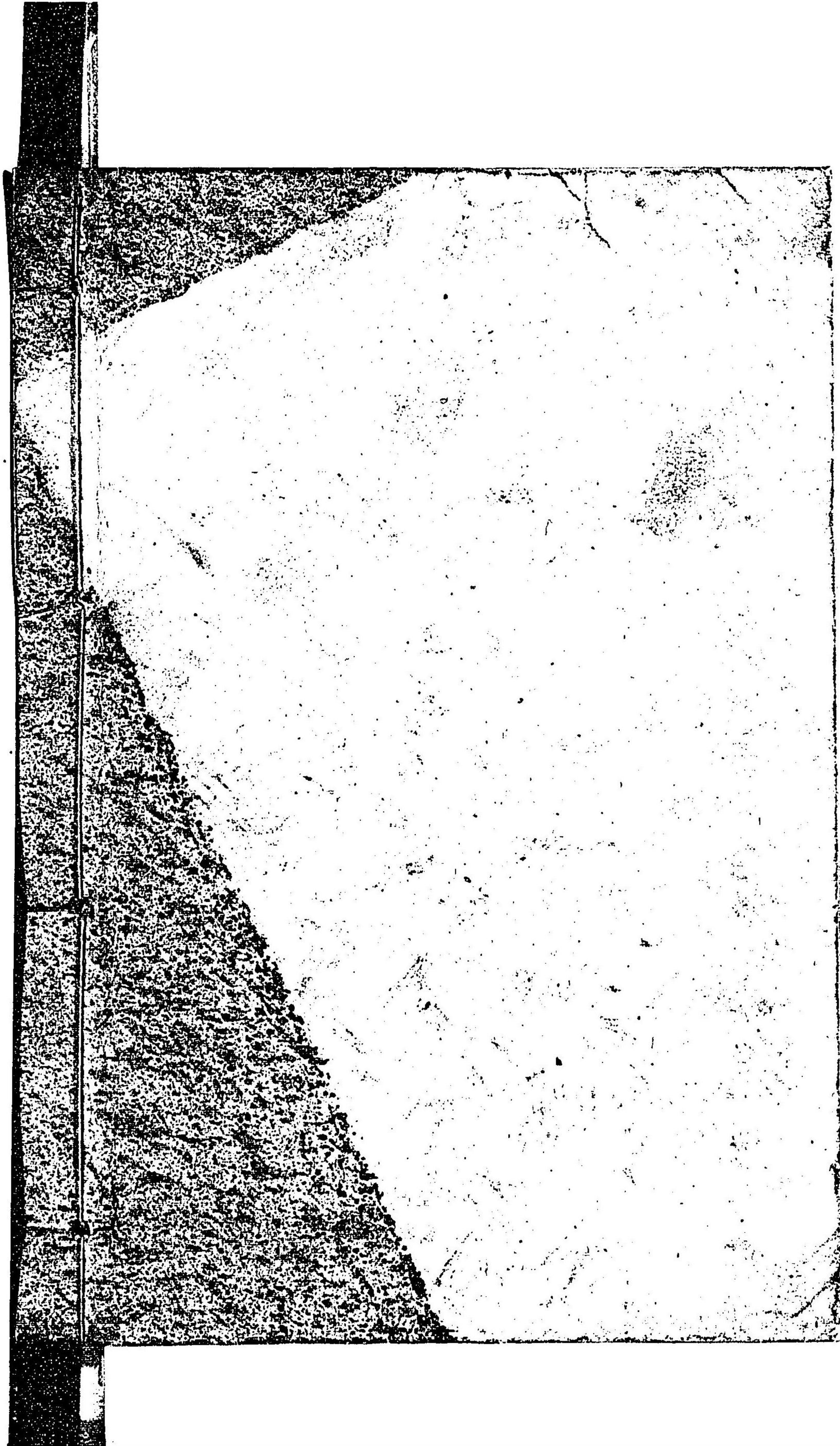
同十九年二月二十八日出版

定價拾三錢

大阪府下北區川崎町三番地

編輯兼出版人 幸嶋慶助







特41

472

014622-000-9

特41-472

真の喜多葉し 御一新の大掃除

幸嶋 慶助 / 編

M19

ABB-1051

